

昭和 6 2 年度

道徳時間の指導と資料の活用

～他人の心を思いやる、児童生徒の育成をめざして～

川崎市総合教育センター 道徳教育研究会議

道徳時間の指導と資料の活用

—他人の心を思いやる，児童生徒の育成をめざして—

道徳教育研究会議 大富 康¹，手塚正行²，伊之口芳浩³

要 約

現代の子どもたちについて考えると，一人っ子育ちが非常に多くなっている。さらにテレビやファミコン等のメディアを対象とする遊びが多く，仲間遊びが疎遠になっている。

このような子どもたちに自分以外の人間を理解する心が育ちにくいのは，当然のことといえよう。

教師がこうした子どもたちを指導する場合，社会構造の大きな変化や価値観の多様化の中で，指導の基準をどこにおき，子どもたちの中に思いやりの心をどのように育て，どのように植え付けていったらいいのか不安が付きにくい。

これらの問題を道徳時間のなかで少しでも解決できればと考えて特に「他人を思いやる心」を養うための指導の工夫を試みると共に，実際に行う道徳時間に役立つための指導資料の収集を図った。

しかし，読み物資料や映像資料は著作権保護の立場から，貸し借りによる利用は制限される。今後，資料の共同利用等を具体化していくためには，自主教材の開発が大きな課題として残された。

キーワード：道徳，道徳教育，指導事例，指導資料，指導案，おもいやり

目 次

I. 主題設定の理由	218	3. 価値の構造化	219
II. 研究の内容と方法		4. 指導案とその考察	220
1. 研究の取り組み	218	III. まとめと今後の課題	226
2. 研究経過	218	参考文献・指導助言者	

¹川崎市総合教育センター（指導主事）

²川崎市立宮前小学校教諭（研修員）

³川崎市立栞形中学校教諭（研修員）

I. 主題設定の理由

現代の子どもたちの中には、人間関係の未熟さから「いじめ」をはじめとする登校拒否、自殺等様々な問題が生じている。こうした背景には、家庭教育の機能低下の問題や、子どもたちの生活体験の減少等多くの原因が考えられるが、その一つとして「他人を思いやる心」の欠如があげられる。

この「思いやる心」を育てる指導は、学校教育では勿論のこと、家庭や地域とも連携した指導が不可欠なものとなるが、ここでは道徳の時間の指導を充実させ、内面化を図ることによって「思いやる心」を育成することに視点を置いた。

また、このような状況にある子どもたちを教師が指導する場合、社会構造の大きな変化、価値観の多様化する中で、指導の基準をどこにおき、人間性をどのように子どもたちにしらせていったらいいのかという不安と戸惑いがある。

教師のこの悩みを資料を収集することによって支援しようと考えた。道徳時間に使う資料や道徳時間の展開例、実践例等の資料の整備と開発はこれを支え、指導効果もより高められる。また、それによって道徳時間に対する不安もかなり解消されるのではないかと考えられる。

II. 研究の内容と方法

1. 研究の取り組み

(1) 道徳の時間においては、感動したり共感したりする心を大切に、相手の立場に立って考え行動できるような気持ちを育てていくと共に小学校低学年から中学校にかけて「思いやり」に関わる価値項目を構造的、重点的に指導するための指導案を作成し、その指導の実践場面を録画により資料化した。

(2) 次のような学校現場での研究や開発教材、読み物資料や、視聴覚的資料等を収集整理して学級担任が活用できるようにした。

- ・ 小学校道徳教育研究会「道徳資料」
- ・ 神奈川県公立中学校道徳教育研究会編「道徳資料集」
- ・ NHK テレビ番組、指導資料
- ・ 市販「道徳資料」(副教材)
- ・ 文部省指導資料

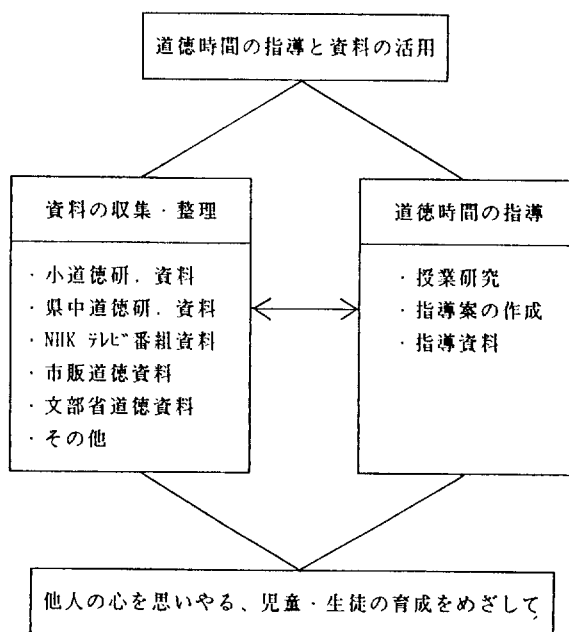
2. 研究経過

初年度においては、道徳教育についての実態と問題点を話し合い研究主題を設定し、その主題についての理論研究を行った。

研究の重点として資料の収集と整理、収集した資料の中から「思いやり」に関連する資料を検討し指導案を作成、その資料や指導案にそった指導を実践しビデオ録画した。

また、NHK道徳番組を録画し、教材としての位置づけなどの研究を行った。

研究の構造図



2年次においては、初年度の研究を継続し、特に市販されている資料や文部省の資料を収集した。さらに、二年間で収集した資料を出典ごと、学年ごとに整理し「道徳資料一覧表」を作成し「他人の心を思いやる児童生徒の育成」の指導の方法についての構造化を図った。

3. 価値の構造化

「思いやりの心」を育てるために、価値項目の中から「思いやり」に関わる項目を選び構造化したものである。「思いやりの心」とは、相手の気持ちや立場を理解し、自他共によりよく生きようとする心と捉えられる。このようなことを基本的な構えとし価値項目を選択した。

価値項目の中で生命尊重については、全価値内容の基盤的中枢的価値であると考えられる。言いかえると、生命ほど厳粛で重いものはないということである。「思いやり」の具体的なあり方としては、自他の体や心を大切にしようという考えや行為がこの価値内容に含まれている。

図にしたがって説明すると、まず「自分を大切に」するという項目に含まれている価値と「他人を思いやる」という項目に含まれている価値を修得することの蓄積により、人間尊重の基本的態度である人間愛を形成するものであると考えた。

「自分を大切に」するということは、自己を愛することである。また「他人を思いやる」ということは、自己を愛すると同じように他の人間を愛することである。つまり自己を愛し、自らを見る目の厳しさがあってはじめて他の生き方に対する理解も深まり、それが単なる理解を越えた共感となって他人を真底から愛することができるわけである。

「他人を思いやる」という中のそれぞれの項目（親切同情、尊敬・感謝、信頼・友情、寛容）は、「思いやり」と直接関わる項目であり、暖かい人間愛の精神を深めることができる価値である。

さらに「思いやりの心」を育てるためには、集団（社会）に対しても、それを愛することが尊重するための基盤であるといえる。

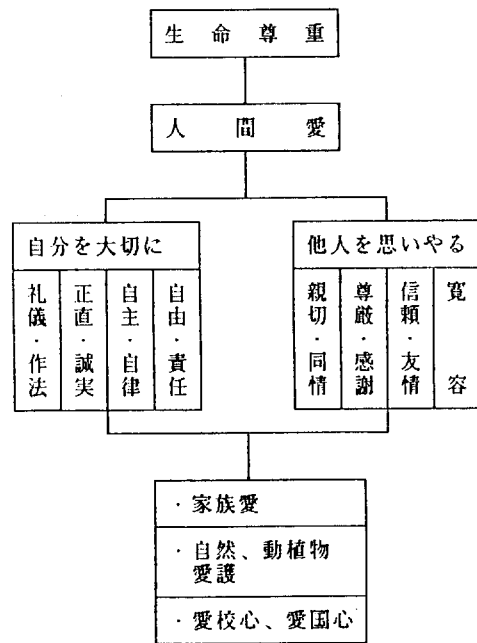
このように、価値項目のそれぞれのまとまりが相互に関連しあって存在するわけであるが、それらの項目を意図的、計画的に指導することにより「思いやり」の心が育成されるものと考えた。

これらの考えをもとにして次のような指導案を作成し指導実践したものをビデオに録画し、指導資料として蓄えた。これは、文字による指導案と併用することにより指導状況が、より具体的に理解できると考えたからである。

以下に掲げた指導案の価値項目は①は「親切・同情」、②は「人間愛・思いやり」、③は「寛容」である。

なお、指導案にある読み物資料は「おおかみとくま」を事例として掲載した。

「思いやりの心を育てる」
価値の構造図



4. 指導案とその考察

(小学校)

第1学年0組

道徳学習指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1. 主題名 やさしい心(親切・同情)
2. ねらい いじわるをしないで、だれにでも親切にしようとする心情を養う。
3. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

困っている人や、気の毒な人を見て、かわいそうだという気持ちはおきても、相手の立場や気持ちを考えて行動することは、たいへんむずかしいことであり、同情的な気持ちのみで、行動が伴わない場合が多い。1年生の子どもたちは、遊びの時や学習の時に友だちのことを思いやる気持ちはあっても自分本位で行動することが多い。そこで、幼い人や弱い人、困っている人に親切にすることは大切であるということに気づかせ、自分のできる範囲で助けて上げ、親切にしようとする気持ちを育てたい。

(2) 児童の実態について

友だちが泣いていると、「どうしたの」と声をかけてあげる優しい面は見られるが、その問題に対して、解決していかうとする姿勢は見られない。「先生〇〇さんが、泣いてます」といいにくるだけで終わってしまうことが多い。また、忘れものをした子に進んで貸してやろうとする子もいるが、教師が「貸してあげてね」と声をかけないと貸すことを思いつかない子が多く、進んで困っている友だちに親切にしてやろうとする態度は少ないように思われる。

(3) 資料について(おおかみと くま)

本資料は、弱い者いじめをしていばっていたおおかみが、くまに親切にされて、その優しさがわかり、自分もみんなに親切にするという内容である。そこで意地悪されたうさぎやきつねの気持ち、意地悪するおおかみの気持ちを十分考えさせ、そのうえで、くまの優しさにふれて親切心にめざめたおおかみの気持ちの変化をくみとらせたい。他の人に親切にすることが、どんなに気持ちのよいことかを心情的につかませ、温かく思いやる優しい心を育てていきたい。

4. 展開

学 習 活 動	基 本 発 問	指導上の留意点
1. 学習内容を知る。 2. 絵話「おおかみと くま」を聞き、話し合う。 ・おおかみにおいかえされるうさぎ、たぬき、きつねの気持ちについて。 ・くまに出会った時のおおかみの気持ちについて。 ・くまのうしろ姿を見送っているおおかみの気持ちについて。 ・くまのまねをするおおかみについて。	・おおかみのしたことに気をつけて聞きましよう。 ・なぜおおかみはいじわるをしたのでしょうか。 ・目の前に大きなくまがいたとき、おおかみはどう思ったでしょう。 ・いつまでもくまを見送っているおおかみは、どんなことを考えていたでしょう。 ・おおかみが前よりずっといい気ちになったのはどうしてでしょう。	・教師範読 ・おおかみの気持ちと対比させて、追いかえされたうさぎやたぬきの気持ちを考えさせる。 ・自分より強い者に出会った時のおおかみの態度に着目させる。 ・くまの優しい行為にふれ、親切心にめざめていくおおかみの気持ちの変化に気付かせる。 ・親切にすることは、いじめることよりもいい気持ちだということを強調したい。
3. 自分の生活を振り返って話し合う。	・クラスの友だちが困っている時親切にしてあげたことはありませんか。 ・お兄さんやお姉さんに親切にもらったことはありませんか。	・今までの生活経験から、親切にしてあげたりしたことを列挙させる
4. 教師の説話を聞いて学習のまとめをする		・親切にされてうれしかった話をする。

おおかみとくま

まるきばしが ありました。
うさぎが わたつて いくと、
むこうから おおかみが やつて
きました。
「こら、こら、おれが さきに
わたるんだ。もどれ もどれ。」
おおかみが、こわい かおで
どなりました。
よわい うさぎは、びっくり
して、あわてて うしろへ もど
りました。
「えへん えへん」
おおかみは、とおせんぼうが
おもしろく なりました。
それからは、きつねが きても
たぬきが きても、いぼつて、
「こら こら もどれ、もどれ。」
と、おいかえして しまいました。
あるひ、おおきな くまが、
のっしのっしとはしを わたつ
て やつて きました。
おおかみは、おどろいて、おじ
ぎを して いました。

「わたしが、うしろへ もど
ります。どうぞ、おさきに。」
「いやいいんだよ。」
くまは、てを ふりました。
「ほら こうすれば いいのさ。」
くまは、そう いて、ここ
にこしながら おおかみを だ
きあげると、うしろに どっこ
いしよと おろしました。
(なんて やさしいくまだろう)
おおかみは、かんしんして、
くまの うしろすがたを いた
までも みおくつて いました。
つぎのひ、おおかみは、はし
の うえで うさぎに あいま
した。 うさぎは あわてて
また もどろうと しました。
おおかみは、やさしく よび
とめました。
おおかみは、うさぎを だき
あげ、うしろに そつと おろ
して やりました。
おおかみは、なぜか まえよ
り ずっといい きもちでした。

指導事例-①

「おおかみと くま」を用いて

指導過程ねらいとする価値を主体的に自覚する段階と終末の段階に十分時間をかけたいと考え、本時は導入段階を省略し直接資料から入り、話し合いに導く手法をとった。

資料は子どもたちがよく内容をつかみ、物語のなかに入っていけるように4枚の絵話にして提示した。

次に展開の前半部分における基本発問を四つに精選し、その中のひとつであるくまの親切な行動から以前の自分の行動を反省し、親切なおおかみに変身していくところをヤマ場と考えて「いつまでもくまのうしろすがたを見送っているおおかみは、どんなことを考えていたのか」を中心発問とした。ここでは、児童ひとりひとりに今までの経験からその子なりの見方・感じ方を述べさせた。

ペープサートを操作したり、くまとおおかみが出合ったところの動作を入れたりすることで、親切に目覚めていくおおかみの心情により共感できるのではないかと思う。

展開の後半では、自分が親切にして上げた経験、お兄さんやお姉さんに親切にもらった経験を列挙させることにより一般化をはかった。

表面的な発言だけにとらわれず、話の場面やふん囲気の中に子どもたちをうまく引き込んで行く配慮や工夫が大切なことであろう。

(中学校)

道 徳 指 導 案 指 導 者 ○ ○ ○ ○

1. 日 時 昭和〇〇年〇〇月〇〇日(〇曜日)第〇校時
2. 学年・組 第2学年〇組(男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名)
3. 主題名 人間の弱さ(人間愛・思いやり)
4. 資料名 二度と通らない旅人(県道研資料集より)
5. ねらい 人間のもつ弱さや醜さを率直に認め、それ乗り越えて、他人に対しての思いやりの心を養う。
6. 主題設定の理由

(1) 生徒の生活実態

日常生活からみたこの時期の中学生は、すでに子どもの段階を経て人生についてのさまざまな疑問を持ち、自己の人間としての弱さや醜さに気づくようになってきている。反面、他人に対してはその弱さや醜さを認めようとせず、また、他人に対しての深い理解と思いやりの心に欠ける傾向にある。

(2) 資料内容とのかかわり

内容項目8は「人間として生きること喜びを見だし、温かい人間愛の精神を深めていく」ことである。上記のように中学生の時期は、人間の弱さ、醜さに気づいても、とかくそれを認めたがらぬ傾向がある。従って、人間としての弱さや醜さを認め、さらにその克服に努めさせ、また、他人に対しても深い理解と思いやりの心を育てたい。

7. 事前指導

資料が、かなり長文なので事前に渡して読ませ、登場人物の考え方や行動について、あらかじめ考えさせておく。

8. 指導過程

	教師の働きかけ	期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
導 入	資料を読み、内容を確認させる。	資料の読みを聞き、各自、一家の人々に対しての感想をもつ。	登場人物について十分確認し、さらに絵により事実関係をしっかりとつかませる。
展 開	7.資料を読んだ後の感想、一家の人々の考え方や行動について感想を求める。	A. 山中の一軒家、風雨の激しい夜、重病の娘という悪条件から考えると、見ず知らずの人を泊める気になれなかったのも無理はない。また、水を飲まなかったことも娘のことから考えるとやむをえない。 B. 旅人を気づかないながら断わったり、旅人の後を追おうという気持ちから察して、この人々を一概に薄情と決めつけるのは可哀相だ。 C. 旅人の苦しい立場を考えると、水ぐらいは飲ませてやれたのではないか、泊めるのはともかく、水さえやらなかったのはひどい。	
		共通の問題意識の設定……一家の人々が、後になって気がとがめ、このことをいつまでも忘れられないのはなぜだろうか。(板書して確認させる。)	
開	4.話し合いの要点 i. Aの感想を話題の中心とする。 ii. Bの感想を話題の中心とする。 iii. Cの感想を話題の中心とする。	○暴風雨の深夜見知らぬ人に泊めてくれといわれても、誰だって即答できないし、重病の娘のことを考えると、それをやらなかったことしかたがない。 ●土間の隅でもとっているし、また、せめて水をとっているのに与えなかったのは薄情だ。 ○父親は心の中では泊めてやろうかと考えているし、兄も水を飲まそうかと考えている。従って、一家の人々を全面的に非難するにはあたらぬ。 ●旅人に対しての薄情なうち、旅人がおいていった丸薬を疑ったりした態度は非難すべき行為だ。丸薬を疑ったのは、もしや妙薬だったらという心の表れだろう。また、いかに事情があっても水ぐらいは飲ませるべきだ。 ●一家の人々は、善意がなかったわけではない。しかし、実際には旅人の気持ちを十分汲みとってやっていない。いつまでも気がとがめて忘れられないのは、そのためで、人間の持つ弱さが感じられる。	一家のやむをえない立場を理解させ十分弁護させる。 善意に対しては善意で報いようとする心をつかませる。 善意の人間の持つ弱さをわからせる。
終 末	教師の感想を述べてまとめる。		生徒の発言をまとめて評価するかたちで教師が感想を述べる

9. 評価 ・人間のもつ弱さに気づき、それを克服して、他人に対しての思いやりの気持ちをもつ態度が養われたか。
・自分の意見をはっきり言い、また、他人の意見も聞きとることができたか。

指導事例②

「二度と通らない旅人」を用いて

本研究の道徳時間においては、特に「思いやりの心」に関連ある資料を選び、相手の立場に立ち、他人の心の痛みが分かる心を育てていくことに主眼をおいた。小川未明のこの文章は、この目的のためには有効な読み物資料といえる。

導入段階での資料の与え方に関しては、生徒に内容をしっかりとらえさせることが何よりも大切なことである。従って、この資料は長文であるので事前に渡し十分時間をかけて登場人物や事実関係をつかませる方法をとった。

展開段階の初発の感想では弁護論、批判論、批判的弁護論等、なるべく多方面の感想を出させるように留意した。この段階での発言では「暴風雨の深夜と重病の娘という悪条件から考えて、一家の人々のとった行動はやむをえない」という弁護論がかなり出た。本当の思いやりとは、真に他人の立場にたって考えることであろう。そのためには弁護論、批判論を十分出させ、お互いの本音をはかせて話し合わせるのが大切である。

次に、共通の問題意識の設定について、この設定の意図は広がりすぎた話題を整理し、焦点をしぼって話し合いを深化させていくことである。いわゆる話し合いの土俵を作るわけである。

ここではもう一度「あの嵐の晩のことを思い出さずにはいられませんでした」という文章を読ませ、「一家の人々が後になって気がとがめ、このことをいつまでも忘れられないのはなぜだろうか」という共通の問題意識の設定を板書し、話し合いを深めさせた。

この設定を考えさせることにより、総じて弁護論に傾きがちな思考をもう一度しっかり見つめ直し、考え直すきっかけにしたい。

はたして、弁護論を十分に出し尽くしてしまうと、生徒たちの考えは「待てよ、これでいいのかな、これでは何か空しい感じがする……」という気持ちに変容してきた。

ここまできたら、批判的弁護論、そして徐々に批判論へと進ませ「一家の人々には善意がなかったわけではないが、旅人の立場にたち、その人の気持ちを汲みとってやっていない。」という考えにまで至らせたい。

最後に、終末の段階であるが、一時間の中での生徒の発言をまとめ、そして評価し、教師自身も感想を述べて終了している。

この指導方法は神奈川県内のほとんどの中学校においてとられている「主題構想論」による展開方法である。神奈川県内の中学校においては、このように資料中心の指導方法がとられているが、他県の中学校では非常に高い比率で次に掲げる「価値の一般化」による展開方法がとられている。

指導事例③（価値の一般化による方法）

「たどんてんぶら」を用いて

道徳の時間における「価値の一般化を図る」とは、各主題においてねらいとする一定の価値の本質を価値として生徒たちに把握させ、体得させることである。資料から離れ、今までの自己を振り返らせ、探求・深化の段階で気づいたり把握したりした道徳的価値を自分のものとして考えさせる。つまり自分は今までこの点についてはどのように考え、どのように対処してきたのか、と自己を振り返らせ本当の自分の姿を見つめさせ、内省させることにより、その価値を主体的に体得させることである。そこで「価値の一般化」による指導案を、生徒に親しみやすい資料である「たどんてんぶら」を用いた展開例で掲げた。

(中学校=価値の一般化)

道徳指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1. 日時 昭和○○年○○月○○日(○曜日)第○校時
2. 学年・組 第1学年○組(男子○○名 女子○○名 計○○名)
3. 主題名 他人の立場(寛容)
4. 資料名 たどんのてんぷら(学研資料より)
5. ねらい 自分の都合や立場のみにとらわれることなく、他人の立場にたつて物事を考え、人それぞれの個性や立場を重んじる態度を育てる。
6. 主題設定の理由
 - (1) 生徒の生活実態
 自我の目覚めつつあるこの時期の中学生は、自己に甘く、自己の考え方の正当性を主張し、他人の立場や考え方を無視する傾向がある。
 ごく少数の生徒はお互いの立場や考え方の違いを理解するようになってきているが、全体的には依然として自己中心的な考え方や行動が目につく。
 - (2) 資料内容とのかかわり
 内容項目は「自分と異なる考えや立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、他に学ぶ広い心をもつ」ことである。
 上記のように、自我が強く表れてくる時期なので、自我の目覚めを正しく発展させていくと共に相手の立場を考え、相手の身になって行動することがきわめて大切である。
7. 事前指導 資料は事前に渡して読ませ、登場人物の役割分担をきめ、生徒に録音させておく。
8. 指導過程

	教師の働きかけ・発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○プラスバンド部の曲をテープで聴かせる。 ○プラスバンドや鼓笛隊でバレード参加するために苦労したことはないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の時、運動会や区民祭に参加し、その練習で大変だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の内容に自然に入っていけるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○資料「たどんのてんぷら」を読ませる。 ○資料を読んだ後の感想はどんなことか。 ○小太鼓を源太にあきらめさせようと家に向かった澄雄は、その時どんな気持ちだっただろうか。 ○父親と小太鼓を一生懸命練習している源太の姿を見て、黙って引き返そうとした時の澄雄はどんな気持ちだっただろうか。 ○これまでに、友だちの生活を見て感動したことはどんなことだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○澄雄は一方的で源太がかわいそうだ。 ○澄雄はリーダーであり、全体をまとめていかねばならない。源太だけみてやるわけにいかないのだからやむおえない。 ○源太はバレードにでる力はない。だからしかたがない。 ○学校の名誉にかかわることで失敗は許されない。 ○源太の努力も認めてやらず、自分は冷たい人間だ。 ○源太の姿はすばらしいと思うがバレードにでられるかどうか心配だ。 ○父親の愛情の深さに感動した。 ○自分の一方的な気持ちが恥ずかしい。 ○もっと源太の立場で考えてやれないだろうか。 ○自分が大きな失敗をした時、友だちが快く許してくれた。 ○学校でほとんど目立たない人が他人の見ていないところで、よく努力している人がいる。 ○体育祭でバトンを落としビリになった友人をリーダーが全然責めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ生徒に役割分担で録音したテープを聴かせる。 ○あまり深入りしない。 ○澄雄のリーダーとしての責任感や学校の名誉のために失敗はできないという気持ちも十分につかませる。 ○掃り道でどうしても決心がつかない澄雄の気持ちを十分話し合わせる。 ○経験のある生徒に発表させる。発表させる。 ○他の立場を認め、自分を反省していくことが、自己を大きく成長させることに気づかせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> づ意○教師の体験を話す。 け欲 		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の発言をまとめ、また、教師の体験を話す。

9. 評価 自己の立場だけ考えずに相手の立場を理解し、広い心で相手を受け入れる気持ちが養われたか。

道徳資料一覧表の抜粋

指導項目	市研究会資料	出 版 物	(カッコ内は出版社の略称)	文庫館資料	NHKテレビ
小	親切同情	1	はしの上のおおかみ	まごになったこりす(教出)、はしの上のおおかみ(光村・文芸)、みちさんのけしごム(光文)、おおかみとくま(学研)、かいのおおかみ(日曜)	えんそく、ぼくは二年生くみの木と小鳥、
		2	七つのはし	でんごんぼん(教出)、ピーマンはきょうり(光村)、ピーナツもしたろう(光文)、ハーモニカの先生(文芸)、まごの女の子(学研)、よう子さん(日曜)	みんなのお見まい、落ちたきつね、花子さんの七夕さま、
		3	バスの中で	やさしいおねえさん(教出)、のりまちはえた判東(光村)、きょう食のお手つだい(光文)、おじいさんの園(文芸)、マルコ先生にちかう少年(学研)、友だちのために(日曜)	みんなのお見まい、落ちたきつね、花子さんの七夕さま、
		4	マルコ先生にちかう少年	鳴ったベル(教出)、デコイの穴でき(光村)、おばあちゃんのがね(光文)、みんなの満足(文芸)、心のしん書き(学研)、ひろつらんど(日曜)	女の子と羊、くずれ落ちた役ボール箱、
		5	増進社スマルナツアさん	列車の中で(教出)、おには内(光村)、母からのプレゼント(光文)、くずれ落ちたダンボール(文芸)、二きつこのノート(学研)、夕焼け(日曜)	女の子と羊、くずれ落ちた役ボール箱、
		6	赤い手袋	もう一つの親切(教出)、美しい心(光村)、最後のひと葉(光文)、石段の思い出(文芸)、ほっといて(学研)、紙(日曜)	女の子と羊、くずれ落ちた役ボール箱、
学	尊敬感謝	1	ありがとう	わたしのおおかさん(光村)、ありがとう(光文・日曜)、こうつうおばさん(文芸)、あんどんおじさん(学研)	へんとうせ、ひのようじんととき、
		2	おじさんありがとう	雨の日の犬どおり(教出)、まつねとぶどう(光村・学研・文芸)、うんどうかい(光文)、しんぞうのしゅじゅつ(日曜)	へんとうせ、ひのようじんととき、
		3	おとうさんはバスのうんてんしゅう	えきの花(教出)、おばあさんがわらったよ(光村)、ぼうや生きていてくれよ(光文)、火事(文芸)、江成久兵衛(文芸)、どんこの初太郎(学研)、しゅじゅつをしるくた(日曜)	渡し場のおじさん、あと三十分おくれたら、
		4	かの助じいさんの船	天竜川に一生をささげた人-倉原明善-(教出)、工事のおじさん(光村)、江戸川の花しゅうぶ(光文)、昭和のかわら(文芸)、弁牛街道(学研)、先生にやりたい(日曜)	渡し場のおじさん、あと三十分おくれたら、
		5	農耕一号の父	あはれ天竜と頼った人(光村)、生きている農耕一号(光文)、村を救った農耕士(文芸)、英和辞典づくり(学研)、おじいさんの日記(日曜)	大原孫三郎、
		6	きみの町に川は流れる	保津用水(教出)、砂丘に生きる(光村)、佐野常民-日本赤十字社の父-(光文)、大原美術館(文芸)、大運河のとびら(学研)、母を背負いて(日曜)	大原孫三郎、
中	信頼友情	1	二おのことり	まどかのおみまい(教出)、きょうはだめ(光村)、二おのことり(光文・学研・文芸)、どうしたの(日曜)	白いくつ、
		2	ないた赤おに	ふみつぶしたドンナ赤(教出)、いわないよぜったい(光村)、モムンとヘーテ(光文)、ないた赤おに(文芸・学研)	白いくつ、
		3	ドッチボール	少年のころのカーネギー(教出)、たびのなま(光村)、ないた赤おに(光文)、友だち(文芸)、おまじない(学研)、ひっこしの日(日曜)	授業書と切手、
		4	正男くんのゆううつ	友だち(教出)、ないた赤おに(光村)、エラー(光文)、結はがきと切手(文芸)、いのりの手(学研)、ケサちゃんのお花園(日曜)	授業書と切手、
		5	自転車の思い出	自分で作ったブローチ(教出)、奥住子さんのなみだ(光村)、ミレーとルソー(光文)、友情の五重紙(文芸)、ことばのおくりもの(学研)、なまわれ(日曜)	ことばのおくりもの、友の肖像画、良縁のノート、
		6	走れメロス	理としたカード(教出)、別れの言葉(光村)、走れメロス(光文・日曜)、長井君とぼく(文芸)、ニコラスとウエーク(学研)	ことばのおくりもの、友の肖像画、良縁のノート、
高	寛容	1	やさしいゆり子さん	とのさまびつた(教出)、あさがおのはな(学研・光村)、おむとおずみ(光文)、ごめんね(文芸)、ウ(日曜)	こぼしたぞ、ぼくのゲロア、
		2	きんいろのクレヨン	よごれたノート(教出)、きみのせいだぞ(光村)、おれたクレヨン(光文)、こくごの本(文芸)、金いろのクレヨン(学研)、かき(日曜)	こぼしたぞ、ぼくのゲロア、
		3	あやまちをゆるす	よごれたランドセル(教出)、山ぞくと女の子(光村)、リストとあるでし(光文)、川におちた良寛さん(文芸)、ししゅうのあるセーター(学研)	ししゅうのあるセーター、こわれた員がら、
		4	良寛さん	鏡のしょく白(教出)、鏡のぬすびと(光村)、赤目先生とつばき(光文)、ししゅうのあるセーター(文芸)、まにあわなかった日曜(学研)、運動会のリレー(日曜)	ししゅうのあるセーター、こわれた員がら、
		5	広い心で	鏡屋よりも大切なもの(教出)、鏡のろくそく立て(光村)、学級新聞作り(光文)、放課後の園芸会展(文芸)、すれちがい(学研)、鏡のしょく白(日曜)	すれちがい、人形と文庫、
		6	貴くんのこと	広い心で-伊藤仁高-(教出)、一枚の大きな写真(光村)、湖の声(光文)、鏡のしょく白(文芸)、青のどう門(学研)	すれちがい、人形と文庫、

指導項目	県道研資料	東 書	学 研	秀 学 社	正 進 社	文 庫 館 資 料
5 寛容・授業 向上心	千円札、バナナの味、裏切りの清作とママージャー、たびの季節	野口文生、足巻の季節、石段の思い出、なみだ、少年の日の思い出、二度と流らない涙人、二度と流らない涙人、	たどんてんよふら、転入生とおた、雪子の庭遊、石段の思い出、星雲は何を教えたか、きんごのこの恋ろしき、	賞金戦、話の情景取り、ハイキングの計画、ちよっとプレーキを、わかれ道、	なくしたグローブ、忘れられないあの日、長い遠路の末に、西行と天竜のわたし場、	監督のちやわん、こわれた文ちゃん、二千メートルの空巻、等巻、哀しき少年、お年玉の思い出、25歳じや安すぎる、
8 人間愛・思いやり	小さな食卓で、どろぼう、ふきの煮物、二度と流らない涙人、おおかみ、橋頭にて、	ヒロシマのうた、あふれる愛、あしがら山の金太郎、ある晴れた日に、	二度と流らない涙人、二丁目の自動販売機、足巻の季節、	ふたたび帰らず、この子らを世の光に、ちよっと待ってあげて、	私の秘密、ライバル、私をしめないで、生きている亀、小さな出来事、	暗唱録、阿どうし、もっとも悲しむべきことは何れのことでも、哀しいことでもなく、ほとんどのため、地獄のある手紙、お年玉の事、千円札、どろぼう、崖下てくれた松葉づた、たどんてんよふら、星雲さんの決心、バナナの味、老使刑囚のかなしみ、交通地獄の門口、
10 友情・信頼	越中巻のけが、冷戦、席巻、吾一と京道、坂崎誠、五千二百円	ちいちゃんのため、娘の恋しみ、わたしのなやみ、友達でできない人に、生きた友情、さきあがりどう、	吾一と京道、娘の恋しみ、四つていさめた友の涙、切手しゅう集、身にしみた香風、	友情について、Mさんあがりどう、ライバル、	親友、朝気で休んでいる親友、雨の日の届け物、	星雲の度、雨の日の届け物、贈りもの、郵便帳、住りなして、
12 家庭愛・異土愛・異教・感謝	新巻、おばあちゃんの病室、母の病室、おじいちゃんの病室、母の手、卒業式、	父の手・母の手、母はおしられ、保津川の父、グスコブドリの伝記、じいちゃん長生きして、郷土資料を保存しよう、	おじいちゃんの病室、母の病室、愛のきずな、小さきものへ、	父の定期預金、受けのしがき、愛護心から愛国心へ、	やっと思がえしがき、明るい家庭はみんなの努力で、両親、おが四万十川、父と母のか、母のくちでせ、	Let's love運動、野口英世の母の手紙、法と社会生活、心の灯、星雲の記、おじいちゃんの病室、深いごはん、

放送月	主 題 名	ね ら い (個 体 項 目)	あ ら す じ
1986年10月 (高学年)	ぼくのグローブ	友だちの通ちをも温かい心で許す(寛容)	誕生日にプレゼントされた大切なグローブを、友だちのチヤミちゃんに譲って置かせてしまう。チヤミちゃんがいくら譲ってもトントは許そうとしない。
1987年1月 (高学年)	ひのようじん	自分たちの世界をしてくれる人へ贈る(尊敬・感謝)	「火の用心」を呼びかけ村を助けてくれるアンさんに、ニセの火のイタズラをしてしまったトントは、おむびにアンさんと一緒に夜廻りをし、その大冒険に挑む。
1986年10月 (中学年)	こわれた員がら	広い心を持つ(寛容)	光は大切にしていた貝の園本を飾り壊されてしまう。飾を許すことができなかったが、光自身がさおりのものを壊してしまい、初めて心の痛みを知る。
1987年1月 (中学年)	ピッカピカの自転車	信頼しあい友だちと仲良くする(信頼・友情)	光と博士は火の仲良し、博士は新しい自転車を得意になり乗り回しているが光には貸さない、博士のすきをみて光はその自転車に乗ったが、車体を壊してしまふ。
1986年9月 (高学年)	なわ踊りの輪	友人を信用し、仲良く助け合う(信頼・友情)	学年のなわ踊りが大会を前に、賑わいづくりに上達しない。そのため賑わいが大会の当日やすめばよいと清明はいう。その清明はハッスルしすぎた大会の日足元をわんざする。
1987年2月 (高学年)	人形と文庫	他人の立場を尊重し通ちを許す(寛容)	文庫の編集委員になった光介は龍一の原稿を預かったが、古新聞の上に置いたまま忘れてしまう。指導母それを切り捨てて人形を作る姿に怒ってしまった。

Ⅲ.まとめと今後の課題

本研究会議では、二ケ年にわたり「道徳時間の指導と資料の活用」をテーマとし、研究を続けてきた。主に資料を収集することに力を注いできたため、市研究会資料、県版資料、市版出版物、文部省資料、NHK資料等、多岐にわたって収集することはできたものの、その内容と活用方法を十分検討するまでには至らなかった。

小学校においては、市版の出版物を比べてみると、各社それぞれに特色がみられる。価値項目別にみると、一主題ずつ掲載されているもの、価値を重点化しているもの等がある。また、内容別にみると、物語、詩、作文、シナリオ、新聞記事等があり、その中で長文、短文と、さまざまである。

さらに、B5版のような大判のものが多く、挿絵もかなり工夫されたものが多い、NHKのテレビ資料については、一主題の中に多くの要素(内容)が含まれているため考えに広がりをもたせられる反面、扱いかたに工夫がいる。

中学校においては、収集した6社の出版物の特徴としては、物み物資料では、小説、物語、随筆論説文、紀行文、詩、戯曲、作文、グループ日記等、多岐のジャンルにわたっている。そして、どの社のものも指導項目の後半の資料内容が、比較的難解である。

次に「めざし」「歯医者」「保線区の父」「足袋の季節」「二度と通らない旅人」「おじちゃんの病気」「洗却炉」等の資料は3社以上で扱われ使用頻度が高い。また、同一資料で複数の指導項目にわたっているものもある。また特に項目11「健全な異性観」に該当する資料が少ない。

収集した資料の活用の仕方を検討し、児童生徒の実態をふまえながら実践を重ねていくことが今後の課題である。また、研究主題の達成には、小学校・中学校での一貫した指導が必要とされる。それも、各学年の発達段階に応じた系統的な指導が大切であろう。従って、各学年の指導の重点項目等を各学校からアンケート等によりとらえ、それを検証し、小学1年から中学3年までの9年間にわたる指導計画を考えることがこれからの大きな課題となろう。

資料の蓄積の面では、各学校の研究授業、公開授業をビデオ録画していくことが、新しく学級をもつ教師のためにも望まれることであろう。いくつかの指導案を共有することで学級担任がよりよい指導をすることが可能であり、さらにそれを具体化するための資料が必要である。その授業の様子を録画した資料とセット化することにより、より効果を期待することもできるであろう。

その半面、視聴覚的資料、特に動画資料では、価値項目が分散され、多面的な価値が出てきやすいが、この多面的な価値をどのように生かしていくか、たくさんの価値をいかに錯綜させ、そこから何を、どのように引き出していくか、教育方法の上で大変重要な課題となる。

○参考文献

- ・「思いやりの心を育てる指導(小・中)」文部省、1986年
- ・青木孝頼 他「小学校学習指導要領の展開～道徳編」明治図書、1985年
- ・金井 肇 他「新道徳教育事典」第一法規、1985年
- ・谷 健 「実践力を育てる道徳指導」小学館、1986年
- ・青木孝頼 編「価値の一般化の発問」明治図書、1986年
- ・川崎市立南百合丘小学校「昭和60年度道徳研究紀要」1986年

○指導助言者

川崎市教育委員会指導主事 佐々木武志

川崎市教育委員会指導主事 平林もと子